

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大阪市荒本西4丁目 新築	階数	地上11F 地下0F
建設地	大阪府東大阪市荒本西	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年2月1日
敷地面積	609 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社日企設計 森田 俊和
建築面積	261 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月1日
延床面積	3,065 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社日企設計 森田 俊和



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性 耐用性 対応性

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

生物環境 まちなみ 地域性

#### LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

水資源 非再生材料の 汚染物質

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合	遮音性の高い建材や、十分に換気ができる窓を採用することにより、室内環境の向上に努めている。	その他 特に無し
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を使用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避するための対策が取られている。	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	設備システムの高効率化に努めている。	Q3 室外環境(敷地内)
		敷地内に可能な限り緑化を行い、室外環境の向上に努めている。
		LR2 資源・マテリアル
		節水コマやリサイクル資材を採用し、資源の保護に努めている。
		LR3 敷地外環境
		特に無し

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)東大阪市荒本西4丁目 新築工事					
	建設地	大阪府東大阪市荒本西					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					3	
④	エネルギー削減					3	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					対象外	
【評価項目】							
	項目	評価内容				スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.0	3
②	みどり・ヒートアイランド対策						
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				2.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.0	3
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.4	3
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				2.0	—
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-
その他							
		技術の名称			考慮事項		
	先進的技術の導入						
	特に配慮した事項						